

一茶ゆかりの里 四季の俳句会（平成二六年度四～六月分）

選者 志やくなげ俳句会 荒井智雄先生

特選 天春シヨールふはり浮かせて退院す 群馬県 田村洋子

退院できたうれしい気持ちが「ふはり浮かせて」の表現でよく表されている。

特選 地朝市の姉さかぶりの声涼し 愛知県 平野辰美

手ぬぐいを姉さんかぶりにした女性が、採りたての新鮮な野菜をさわやかな声で売っている情景が目に浮かぶ。

特選 人妻も下戸そっと根本へ花見酒 長野市 青木武明

花見の席で夫婦共に酒は飲めないので、盃の酒を桜の木の根本に周りに気づかれないようにそつてこぼしている。

入選 味噌玉ののれんの蔵や燕来る 須坂市 鈴木保江

入選 花の下歩きつかれし幼児靴 群馬県 滝沢照香

入選 庭作り親子揃ひの夏帽子 群馬県 岡村妃呂子

入選 岳寿迎へ俳画に挑む夕桜 群馬県 竹渕てる子

入選 無遠慮に庭から居間へ蟻の道 群馬県 山口岩美

入選 イワツバメ青い空まで飛んでつた 中野市 関稟

入選 ほーほーと農婦追ひやる稻雀 長野市 阿部仲雄